

2024 年度 第3 クール

ケースメソッド教授法セミナー

アドバンス・モジュール

授業シラバス

講師 竹内 伸一
丸尾 聡

1. 概要

本セミナーは、ケースメソッド教授法セミナー ベーシック・モジュールに続く訓練機会であり、ケースメソッドによる授業運営スキルを一段高い次元に磨き上げる場として開講するものです。

ベーシック・モジュールと比較したときのアドバンス・モジュールの特徴は、1) ディスカッションリード演習における教育目的のより確かな達成、2) ケースメソッド教育の組織的実現に向けた議論、3) 複数のケース教材を組み合わせて授業を行う演習、4) 複数部仕立てで作成されているケース教材を用い、授業中に追加情報を提供しながら授業を行う演習、5) 授業フィードバックの一環としての、当該ケース作成の動機やプロセスについての解説、6) 参加者自身の教育フィールドでのケースメソッド教育実践、が新たに加わることです。

ベーシック・モジュールでは、授業運営技術の獲得とともに、あるいはそのことを通して、組織におけるリーダーシップ開発を積極的に見据えましたが、アドバンス・モジュールでもそれは同様でありつつも、ケースメソッド教授法の完成そのものをより高く目指します。

2. 参加対象者

本セミナーの参加者は、ケースメソッド教授法セミナー ベーシック・モジュールの修了

者に限定されます。

なお、今回開講するアドバンス・モジュールには、ベーシック・モジュールを受講し、成績優秀となった大学院生を聴講させています。大学院生にはディスカッションリード演習への立候補資格がありませんが、積極的にクラスに貢献することが求められています。成績評価も正規の受講者と同様に行い、アドバンス・モジュールでの成績がA評価となれば、大学院生にもケースメソッド・インストラクター認定証を授与しています。

例年、アドバンス・モジュールでは、学内外の参加者によるコラボレーションが自然に生じ、ベーシック・モジュールよりもさらに豊かな学びの共同体が形成されています。

3. 授業の日程と内容

第1セッション 1月25日(土) 10:00-17:00 【担当：丸尾・竹内】

アドバンス・モジュールは、開講宣言としての導入レクチャー「非指示的に教える」から始まります。続いて、ディスカッションリードの目標水準を見据え直すべく、受講生代表と講師が、同一ケースによるディスカッションリードを競い合う、ゲーム形式の演習を行います。

<当日スケジュールと使用教材>

10:00~10:15 オリエンテーション

・本シラバス

10:15~12:00 レクチャー&ディスカッション：非指示的に教える

・リーディング「非指示的に教えるということ」

(12:00~13:00 昼食)

13:00~16:50 リレー式！ディスカッションリード演習（担当：受講生代表* & 竹内）

・ケース「あるコンビニエンスストアの現金違算」（改編版）

授業時間 50 分

ー13:00~13:30 グループ討議 ー13:35~14:25 クラス討議Ⅰ（受講生代表）

ー14:35~15:05 クラス討議Ⅰへのフィードバック ー15:15~16:00 クラス討議Ⅱ（竹内）

※ このディスカッションリードの演習者は、開講前事前ミーティングで決定いたします。

「リレー式！」のディスカッションリード権を得た方は、セッション2以降のディスカッションリード演習には立候補できません。

【ケースのあらすじ】「あるコンビニエンスストアの現金違算」（改編版）

ニコニコmart港通り店は、〇〇県北部の沿岸部にある、人口9,500人ほどの街の中心に立地した24時間営業のコンビニエンスストアである。オープンして3年が経ち、地域住民からも親しまれ、業績も好調であったが、問題も抱えていた。それは「かなりの金額に及ぶ現金違算」の発覚であった。店長の中村氏が、レジからお金がなくなっている曜日と勤務シフト表とを見比べたところ、1人の女子高校生アルバイトの可能性が色濃くなった。その彼女とは、港通り店の「看板娘」であり、この店の売上を支えている存在だった。

ー16:10～16:50 クラス討議Ⅱへのフィードバックと解説
16:50～17:00 ディスカッションリード演習者の決定

<予習要領>

- 1) 授業の事前に内容を熟読し、設問に対する自分の回答を書き出しておくべきもの
- ・ ケース「あるコンビニエンスストアの現金違算」【授業準備ノート要提出】

クラス討議Ⅰのディスカッション設問は、このケースを担当するディスカッションリーダー（受講生代表）から追って指示されます。準備要領は、P7（6. 必要な準備とワークロード）をご参照下さい。竹内が行うクラス討議Ⅱのディスカッション設問は、授業当日その場で発表しますので、クラス討議Ⅱの授業準備ノートの作成は不要です。

- 2) 授業の事前に内容を熟読しておくべきもの
- ・ リーディング「非指示的に教えるということ」
- 3) 授業の事前に、内容にざっと目を通しておけばよいもの
- ・ 本シラバス
- ・ 教科書「ケースメソッド教授法入門」P113～P138
- ・ リーディング「ブレヒトの教育劇」

第2セッション 2月8日（土）10:00～17:00 【担当：丸尾・竹内】

組織にケースメソッド教育をはじめて導入する、あるいはそれを維持・向上させていく際に直面する問題を描写したケース教材二点について、参加者のディスカッションリードで議論します。併せて、これら二点のケースの作成プロセスも紹介することで、ケース作成／授業計画／授業実践を一連の流れとして捉える視座の獲得を目指します。

<当日スケジュールと使用教材>

10:00～10:10 オリエンテーション

10:10～13:00 ディスカッションリード演習①（担当： ） 授業時間 60 分

・ ケース「東急マーチャндаイジング・アンド・マネジメント」

ー10:10～10:40 グループ討議 ー10:50～11:50 クラス討議 ー12:00～12:30 フィードバック

ー12:30～13:00 ショートレクチャー「このケースは、なぜ、どのように作られたか」

(13:00～14:00 昼食)

14:00～16:50 ディスカッションリード演習②（担当： ） 授業時間 60 分

・ ケース「石川経営天書塾」

ー14:00～14:30 グループ討議 ー14:40～15:40 クラス討議 ー15:50～16:20 フィードバック

ー16:20～16:50 ショートレクチャー「このケースは、なぜ、どのように作られたか」

16:50～17:00 全体フィードバック、Q&A

<予習要領>

授業の事前に内容を熟読し、設問に対する自分の回答を書き出しておくべきもの

- ・ ケース「東急マーチャンダイジング・アンド・マネジメント」【授業準備ノート要提出】
- ・ ケース「石川経営天書塾」【授業準備ノート要提出】

ディスカッション設問は、このケースを担当するディスカッションリーダーから追って指示されます。準備要領は、P7（6. 必要な準備とワークロード）をご参照下さい。

※ この日にディスカッションリード演習をされる方々は、第2セッションの一日を通してひとまとまりの学びが形成されるように、準備段階から連携・協働してください。詳しくは、別紙「ディスカッションリード演習への立候補に当たって」を参照ください。

第3セッション 2月22日（土）10：00－17：00 【担当：丸尾・竹内】

このセッションでは、ビジネス教育のためのケース教材を扱うとともに、より高度なディスカッションリード技術の獲得を目指します。具体的には「複数のケース教材を組み合わせ、授業を行う演習」と「複数部仕立てのケース教材を授業中に順次配布しつつ授業を行う演習」を行い、実際の教壇での活用に耐えられるように、授業運営技術のストレッチを試みます。

<当日スケジュールと使用教材>

10:00～10:10 オリエンテーション

10:10～13:00 ディスカッションリード演習③（担当： ）**授業時間 70 分**

- ・ ケース「花王株式会社の『クイックルワイパー』開発活動」
- ・ ケース「花王株式会社の社内研修取組 2006」

－10:10～10:40 グループ討議 －10:50～12:00 クラス討議 －12:10～12:40 フィードバック

－12:40～13:00 ショートレクチャー「このケースは、なぜ、どのように作られたか」

13:00～14:00 昼食

14:00～16:50 ディスカッションリード演習④（担当： ）**授業時間 70 分**

- ・ ケース「HIV ポジティブ」

－14:00～14:30 グループ討議 －14:40～15:50 クラス討議 －16:00～16:30 フィードバック

－16:30～16:50 ショートレクチャー「このケースは、なぜ、どのように作られたか」

16:50～17:00 全体フィードバック、Q&A

<予習要領>

授業の事前に内容を熟読し、設問に対する自分の回答を書き出しておくべきもの

- ・ ケース「花王株式会社の『クイックルワイパー』開発活動」「花王株式会社の社内研修取組 2006」【授業準備ノート要提出】
- ・ ケース「HIV ポジティブ」【授業準備ノート要提出】

ディスカッション設問は、このケースを担当するディスカッションリーダーから追って指示されます。準備要領は、P7（6．必要な準備とワークロード）をご参照下さい。

※ この日にディスカッションリード演習をされる方は、ビジネス教育の経験者であるか、経験者に準ずるビジネス教育能力をすでに備えている方であることが望ましいです。詳しくは、別紙「ディスカッションリード演習への立候補に当たって」を参照ください。

第4セッション 3月8日（土）10：00－17：00 【担当：丸尾・竹内】

このセッションでは、「ケースメソッド教授法セミナー」全8セッションの総仕上げとして、演習者自身の教育フィールドのケース教材を用いたディスカッションリード演習を行います。この演習は私たちの卒業試験に代わるものとも言えるもので、参加者ひとりひとりがケースメソッド教授法を真に自分のものにするためには欠かせない演習機会となります。

<当日スケジュールと使用教材>

10:00～10:10 オリエンテーション

10:10～13:00 ディスカッションリード演習⑤（担当： ） **授業時間 60 分**

・ケース教材は演習者が決定し、調達する。

ー10:10～10:20 演習者による導入ガイダンス

ー10:20～10:50 グループ討議 ー11:00～12:00 クラス討議 ー12:10～12:40 フィードバック

ー12:40～13:00 講師コメント「このケース教材で行い得るケースメソッド授業の可能性と課題」

13:00～14:00 昼食

14:00～16:50 ディスカッションリード演習⑥（担当： ） **授業時間 60 分**

・ケース教材は演習者が決定し、調達する。

ー14:00～14:10 演習者による導入ガイダンス

ー14:10～14:40 グループ討議 ー14:50～15:50 クラス討議 ー16:00～16:30 フィードバック

ー16:30～16:50 講師コメント「このケース教材で行い得るケースメソッド授業の可能性と課題」

16:50～17:00 修了者に贈る言葉（竹内）

<予習要領>

授業の事前に、午前ならびに午後の演習者が指定したケース教材を熟読し、そこに付された設問に対する自分の回答を書き出しておく。午前ケース、午後ケースともに【授業準備ノート要提出】。

ディスカッション設問は、このケースを担当するディスカッションリーダーから追って指示されます。準備要領は、P7（6．必要な準備とワークロード）をご参照下さい。

※ この日にディスカッションリード演習をされる方は、できればビジネス教育以外の教育

フィールドにいらっしゃる方が望ましく、かつご自分の教育フィールドのケース教材を自分で選択し、調達できる方でなければなりません。詳しくは、別紙「ディスカッションリード演習への立候補に当たって」を参照ください。

使用する教材のうち、事前配布分については、参加者が指定した教材送付先に事前に郵送します。当日配布分は授業中に配布し、授業を休んだ場合は、次のセッションに出席したときに TA から手渡します。

4. 授業が行われる場所

慶應義塾大学大学院経営管理研究科（神奈川県横浜市日吉）

日吉キャンパス 協生館 4 F 階段教室 4

交通：東急東横線日吉駅下車徒歩 3 分

キャンパス地図 URL：<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/hiyoshi.html>

協生館 URL：<http://www.kcc.keio.ac.jp/>

5. 使用する教科書および参考図書情報

-- 本節以降の記述は、ベーシック・モジュール シラバスの記述と 8 割方同じです --

教科書：「ケースメソッド教授法入門 ～理論・技法・演習・ココロ～」

高木晴夫監修，竹内伸一著，慶應義塾大学出版会，2010

※ この教科書について

アドバンス・モジュールを受講される方はすでにこの教科書をお持ちかと思います。本書の第 5 章が第 1 セッションのレクチャーコンテンツの基礎となっています。本書をベーシック・モジュール全体の復習に、またアドバンス・モジュール第 1 セッションの予習に役立ててください。

参考図書：「ケース・メソッド教授法」

L. B. バーンズ他著，高木晴夫訳，ダイヤモンド社，2010

※ この参考書について

約 530 ページからなるこの教科書は全体が 3 部構成になっていて、第 I 部と第 III 部がいわゆる教科書的な記述であり、第 II 部がケース集・リーディング集になっています。第 I 部だけ読んで

も多くを学べますが、この本の本質的なよさは量・質ともに豊かな第Ⅱ部にあり、それが「ケースメソッド授業法をケースメソッドで学ぶ」という本書のコンセプトを支えています。内容的に示唆に富むリーディングも多いので、ぜひ全編に目を通してください。（本書はすでに絶版になっており書店では購入できません）

参考図書：「実践！日本型ケースメソッド教育」

高木晴夫・竹内伸一，ダイヤモンド社，2006

※ この参考書について

この本は、主に企業の人事担当者に向けて、ケースメソッドで学んだ従業員が、組織の強みにどのように寄与するのかを論じています。教授法についての具体的内容はほとんど出てきませんが、「ケースメソッドという授業方法を用いて育成する人材像」を絶えず明確にしておくことは、教授法の学習に際してとても重要ですので、参考図書に挙げました。（本書はすでに絶版になっており書店では購入できません）

6. 必要な準備とワークロード

3項の授業内容にある「ディスカッションリード演習」について必要になる事前準備は、ディスカッションリードを行う【講師役】、その講師役を演習当日までさまざまに支援する【サポート役】、講師役のディスカッションリードに対して発言して議論する【参加者役】の三者で異なります。

第1セッションの「リレー式！ディスカッションリード演習」に受講生代表として立候補された方は開講の事前に、また、第2セッション以降のディスカッションリード演習に立候補された方は第1セッションの最後に、1＋6回分の【講師役】7名を決定します。また併せて、【サポート役】を講師役1名につき、原則として2名決定します。決定方法は立候補者によるじゃんけんです。

【講師役】と【サポート役】はコンビを組み、お互いに協力しながら授業準備に当たります。ケースメソッド授業は授業者単独で実践すると、授業者への負担が大きくなることから、多くの実践（とりわけ経験の浅いディスカッションリーダーによる教育実践）が「チームティーチング」によって行われています。よって、本セミナーで授業の共同準備を体験しておくことは有益な教授法訓練になると考えます。

【講師役】と【サポート役】は、担当する演習授業で使用するケースについて、まずはディスカッション設問を作成して、授業が行われる直前の日曜日の 18:00 までに丸尾講師に提出してください。その設問は丸尾講師から全参加者に直ちに配信されます。また【講師役】は、その設問を作成した意図、その設問を使ってケースを討議することのねらい、討議をすることでどのような学びをクラスに形成しようとするのか、クラス討議時間をどのように使うか、などを A 4 用紙 4 枚（ページ数厳守）に記述した授業計画書を作成して“info-cm@kbs.keio.ac.jp”宛てに送信して提出してください。授業計画書の提出期限は演習当日の朝 9 時です。ディスカッション設問と授業計画書の提出責任は【講師役】と【サポート役】の双方が負っています。

一方、【参加者役】として討議に参加する者は、【講師役】から事前に与えられた設問をもとにケースを読み、クラス討議で自分が発言する内容を授業準備ノートとして準備します。授業準備ノートは手書きのラフなもので構いませんし、分量的にも A 4・1 枚程度で十分です。これに、日付、ケース名、氏名を明記して、各回の授業終了時に教室で提出してください。なお【講師役】と【サポート役】は、担当するケースに関しては授業計画書を作成しますので、そのケースに関する授業準備ノートの提出は不要です。

また、ベーシックモジュールとは異なり、アドバンスモジュールでは第 1 セッションでも参加者による「ディスカッションリード演習」がありますので、授業準備ノートは同様に提出することが必要です。

これに加えて、各セッションに割り当てられたリーディング教材と、教科書の指定箇所を一読しておくことが必要です。

アドバンス・モジュールで行うディスカッションリード演習には、1) ベーシック・モジュール以上の演習水準が求められる、2) 比較的高度な授業運営スキルを求めるケース教材を用いての教育対応力のさらなる向上が求められる、などの諸要求があることから、演習立候補へのハードルがベーシック・モジュールよりも上がっています。担当講師の胸中には、多くの参加者に果敢にチャレンジして欲しいという想いと、使用するケース教材を教えるための専門的な知識や経験と、それに裏打ちされた高い教育構想力、そして授業計画を遂行するための授業運営技術、また第 4 セッションへの立候補者は調達するケース教材品質について、一定の厳しさで自己点検した上で立候補して欲しいという想いが同居しています。立候補され、じゃんけんに勝ち、演習の権利を得た方には講師は最大限の支援をいたしますので、演習を希望される参加者には責任ある立候補をお願いいたします。その判断のための補助資料として、教材セットに別紙「ディスカッションリード演習への立候補に当たって」を同封しましたので、ご参照ください。

7. 修了認定

本セミナーの修了認定は、慶應義塾大学大学院経営管理研究科で開講している修士課程・博士課程併設科目「ケースメソッド教授法（特論）」の成績評定方法に準じて行い、A評定の参加者に優秀修了証を、BおよびC評定の参加者に修了証を発行します。D評定となった参加者には修了証を発行しません。修了証は、アドバンス・モジュールの全授業日程を終え、成績が確定した後に、受講生の教材送付先住所宛てにお送りいたします。

成績評定の考え方、方法、基準について、以下で説明します。

本セミナーの成績は、参加者個人の知識の増加量や授業運営能力の向上幅よりもむしろ、ケースメソッド授業の場作りのための貢献努力の度合に応じて評定します。前者と後者は決して相反するものではありませんが、本セミナーでとくに後者を重視したい理由を以下に述べます。

現実の授業運営では、学習者の意欲、準備量、発言量が十分ではない状況での、講師の悪戦苦闘が予想されます。そのような状況下にあってもケースメソッド授業を運営していくためには、どこかで理想に近い体験をしておくことが望ましいと考えます。本セミナーが理想的原体験の場になるよう、講師は全力を尽くしますので、参加者にも協力をして欲しいと考えています。その貢献努力に成績で報いることを、本セミナーの基本的な成績評価方針とします。

授業の場作りに向けた具体的な貢献として、参加者には、まず授業に参加するための事前準備を求めます。第1～4セッションで行う「ディスカッションリード演習」に参加するための授業準備ノートを毎回のセッション終了時に提出してください。授業準備ノートは6項に説明した通り。第4セッション終了までに全7ケース分が提出されていれば、成績として「B」を保証します。

成績を「B」以上に上積みするためには、次の三つの方法のうち、参加者にとって貢献しやすい方法を選んでもらえれば結構です。第一は、授業中の積極的な発言、質問、問題提起です。このような姿勢が顕著に見られた参加者には、成績を上積みします。第二は、ディスカッションリード演習で【講師役】あるいは【サポート役】を務めることです。立候補者数が多数いる場合は、【講師役】あるいは【サポート役】にチャレンジする意思があってもそれが叶わないこともあります。相当量に及ぶ事前準備と当日の労をねぎらう意味で、この演習を実施した方に、講師からのギフトとして

成績を上積みします。第三は、レポートの提出によります。レポートが提出された場合も成績に必ず上積みされます。以上の三つはいずれも成績を上積みするための登山道であり、すべてを満たすことを求めるものではなく、どの登山道からでも山頂に近づけると理解してください。

以上は、ケースメソッドで教えたり、学んだりするための、スキルなどに代表される形式的な側面を評価するための手続きに関する記述であり、ベーシック・モジュールのときとはほぼ同じことを述べています。しかしながら、ケースメソッドで教える道には、講師となる人物の人格的な側面が大きく関わってきますので、アドバンス・モジュールではこのことも確かに見据えていきたいと考えています。参加者の人格的側面を成績として評価することはできませんが、人格面での向上も意識して目指すアドバンス・モジュールにしたいという宣言として、敢えて成績評価欄の一角に付記しました。

また、大学では単位取得要件として全授業コマ数の 1/3 以上への出席を求めていますので、本セミナーでは出席票の代用としている授業準備ノートの提出件数が 5 回以下（全 7 回×2/3）の場合は D 評価（不合格）となります。

<レポートの作成と提出要領>

下記のとおり論題を指定します。3000 字程度で述べてください。

「ケースメソッドで教える講師に求められる能力と姿勢」

レポートは、メールにファイルを添付して下記宛に送信してください。

e-mail: info-cm@kbs.keio.ac.jp

慶應義塾大学大学院経営管理研究科 ケースメソッド授業法研究普及室

提出期限 3 月 17 日（月） 当日のタイムスタンプがあるものまで受理します。

8. ケースメソッド・インストラクター認定証

ベーシック・モジュールとアドバンス・モジュールの両方で優秀修了証を授与された方に、ケースメソッド・インストラクター認定証を授与します。

ケースメソッド・インストラクター認定証は、アドバンス・モジュールの全授業日程を終え、成績が確定した後に、受講生の教材送付先住所宛てに、アドバンス・モジュールの修了証とともに送りいたします。

9. このコースに関する問い合わせ先

慶應義塾大学大学院経営管理研究科 ケースメソッド授業法研究普及室

e-mail: info-cm@kbs.keio.ac.jp

担当：鶴ヶ谷典俊（つるがや のりとし）

10. お願い

本セミナーの授業は、ディスカッションリード演習者へのフィードバック（授業映像提供）、および授業内容の改善を目的に、常時録画をしています。参加者にはご理解とご協力をお願いいたします。

また、本セミナーの授業映像は、収録日から 30 日間限定で、視聴者を限定して閲覧できるストリーミング視聴が可能です。視聴方法については第 1 セッションで説明します。

以上

2013/2/6 作成

2014/1/18 改訂

2014 年 5 月 12 日改訂

2014 年 11 月 20 日改訂

2015 年 11 月 19 日改訂

2017 年 12 月 26 日改訂

2018 年 11 月 8 日改訂

2019 年 11 月 11 日改訂

2020 年 12 月 2 日改訂

2022 年 12 月 26 日改訂

2023 年 12 月 25 日改訂

2024 年 12 月 2 日改訂